

モンゴルのメタンガス開発の可能性

エルデネスモンゴル 主任エコノミスト Ch. オトゴチュルー

エルデネスモンゴル 地質・石油・ガス部門開発スペシャリスト R. ボルドエルデネ

(要旨)

1991年以降、モンゴルの天然資源探査は、国内中で活発化し、2005年に最初のコールベッドメタン(CBM)探査事業がストームキャットエネルギー社によって始められ、その後、2010年に韓国ガス社(KOGAS)、2013年にアメリカ環境保護庁などによって行われた。

今日、地質学的な石炭資源は約1500億トンとみられ、全体の3分の2は高品質の褐炭である。原炭の利用が市街地の大気汚染の主な原因となっているものの、モンゴルのエネルギー需要の86.3%は石炭で供給されている。そのため、モンゴルは地球環境変動に取り組みながら、クリーンなエネルギー資源の1つであるCBMを国の主要エネルギー資源とすべく、いくつかの環境保護政策書を作成し導入している。モンゴルのメタンガス資源は3.2兆立方メートルと見積もられており、この規模は世界有数である。本稿で示すように、モンゴルのCBM事業は、埋蔵量と品質の高さから、国のCBMガス開発の可能性を現している。

モンゴルのCBM利用には、長所と短所がある。長所は、

- 比較的埋蔵量が多くカロリー価値が高い(CBM1000立方メートル=石油製品1トン)
- 温室効果ガス排出削減と、天然資源の総合的な利用による大幅な環境的恩恵
- 石油及び天然ガスに比して探査・抽出が経済的に低コストで優れている一方で、探査・生産技術が石油及び天然ガスとほぼ同様
- 液状燃料、合成ガス、肥料、メタノール、アンモニア、ポリマー、溶剤など、化学製品製造のための原材料としてのCBM利用の可能性
- 地下の採掘作業の安全化支援

ガス輸送パイプライン、圧縮ステーション、配水設備、道路網、鉄道など、インフラ整備に対する要求に応えるための資金需要の課題がある。国内への世界規模のCBM導入は、環境を保護しながら、利用者によりクリーンなエネルギー源を提供することにつながる。モンゴルは、新しくできた部門で投資を引き付け、その可能性を利用するための法改正に向けた重要な節目を迎えている。

[英語原稿をERINAにて翻訳]